

広島県経済の動向

令和2年9月30日

商工労働局

目 次

I	経済動向の概要	1
1	国内経済の動向	
2	広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
1	鉄鋼	
2	自動車	
3	造船	
4	一般機械	
5	電気機械	
III	中小企業の動向	5
1	概況	
IV	企業倒産状況	7
1	概況	
2	業種別	
3	原因別	
4	今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	8
1	県内の有効求人・求職の動向	
2	県内の新規求人・求職の動向	
3	県内の人員整理の状況	
4	完全失業率の状況	
5	名目賃金、実質賃金の推移【事業所規模5人以上】	
6	名目賃金、実質賃金の推移【事業所規模30人以上】	

I 経済動向の概要

1 国内経済の動向

(1) 概要

指 標	R 2年		
	6月	7月	8月
基調判断	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きが見られる。
輸 出	感染症の影響により、急速に減少している。	感染症の影響は残るものの、下げ止まりつつある。	持ち直しの動きがみられる。
生 産	感染症の影響により、減少している。	総じてみれば、減少しているものの、このところ一部に持ち直しの兆しもみられる。	一部に持ち直しの動きがみられる
設 備 投 資	このところ、弱含んでいる。		弱含んでいる。
雇 用 情 勢	感染症の影響により、弱さが増している。	感染症の影響により、弱い動きとなっている。	
個 人 消 費	緊急事態宣言の解除に伴い、このところ持ち直しの動きがみられる。	このところ持ち直している。	
住 宅 建 設	弱含んでいる。		
企 業 収 益	感染症の影響により、急速に減少している。	感染症の影響により、急速に減少している。企業の業況判断は厳しさは残るものの、改善の動きがみられる。	感染症の影響により、大幅な減少が続いている。企業の業況判断は厳しくは残るものの、改善の動きがみられる。

(2) 先行き

先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待されるが、感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動に十分注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和2年8月27日公表）】

2 広島県経済の動向

(1) 概要

指 標	R 2年		
	6月	7月	8月
基調判断	新型コロナウイルス感染症の影響から、大幅に悪化したあと、厳しい状態が続いている。	新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状況が続いている。	
輸 出	大幅に減少している。		
生 産	大幅に減少している。		
設 備 投 資	横ばい圏内の動きとなっている。		
雇 用 情 勢	弱めの動きがみられている。		
個 人 消 費	大幅に減少したあと、足もと下げとまりつつある。	持ち直しの動きがみられている。	
住 宅 投 資	弱含んでいる。	緩やかに減少している。	

(2) 県内の経済の状況

需要項目別に概観すると、公共投資は復旧・復興需要がみられる中で、高水準で推移している。個人消費は持ち直しの動きがみられている。設備投資は横ばい圏内の動きとなっている。住宅投資は緩やかに減少している。輸出は大幅に減少している。

生産は大幅に減少している。雇用・所得環境をみると、労働需給、雇用者所得ともに弱めの動きがみられている。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台前半となっている。

先行きの景気は、経済活動の再開に伴い、徐々に改善に向かうことが期待されるが、そのペースは緩やかなものにとどまるとみられる。

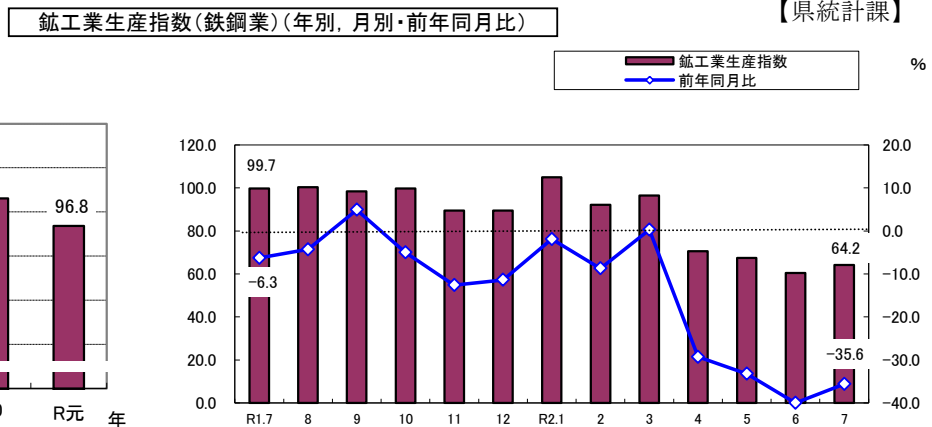
【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（注 令和2年8月3日公表）】

9月の「広島県の金融経済月報」の公表は行われない。

II 県内主要製造業の生産動向

1 鉄鋼（令和2年7月）

7月の鉄工業生産指数（鉄鋼業，原指数，速報値，平成27年＝100）は64.2で，前年同月比で35.6%減少となっている。

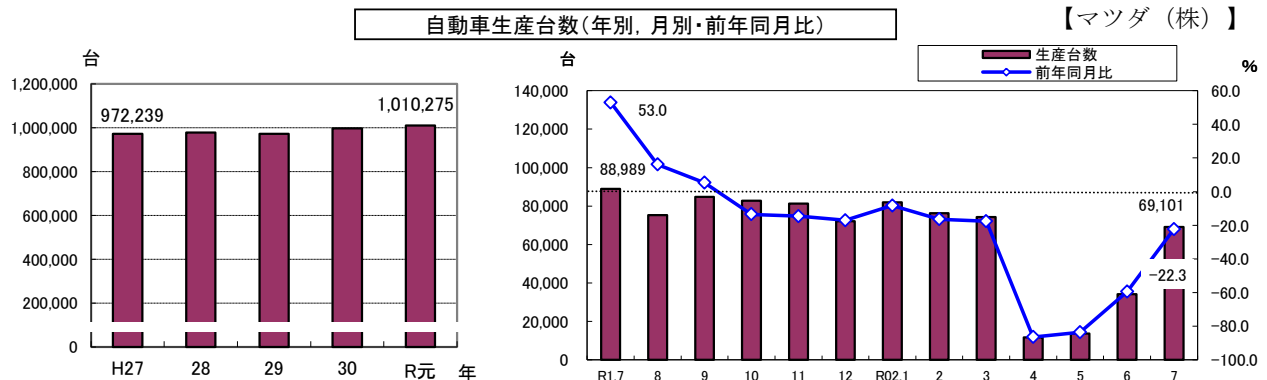


○最近の景況

大幅に減少している。

2 自動車（令和2年7月）

7月の国内生産台数は69,101台で，前年同月比で22.3%減少となっている。

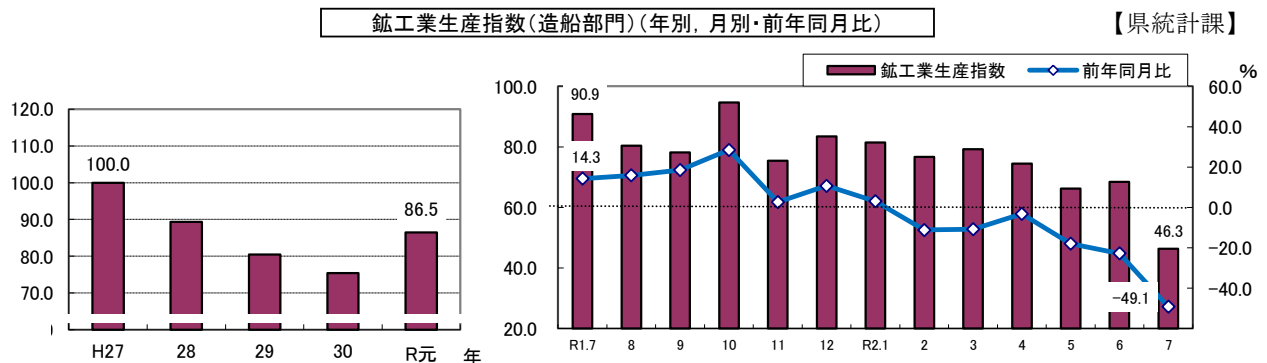


○最近の景況

大幅に減少している。

3 造船（令和2年7月）

7月の鉄工業生産指数（造船部門，原指数，速報値，平成27年＝100）は46.3で，前年同月比で49.1%減少となっている。

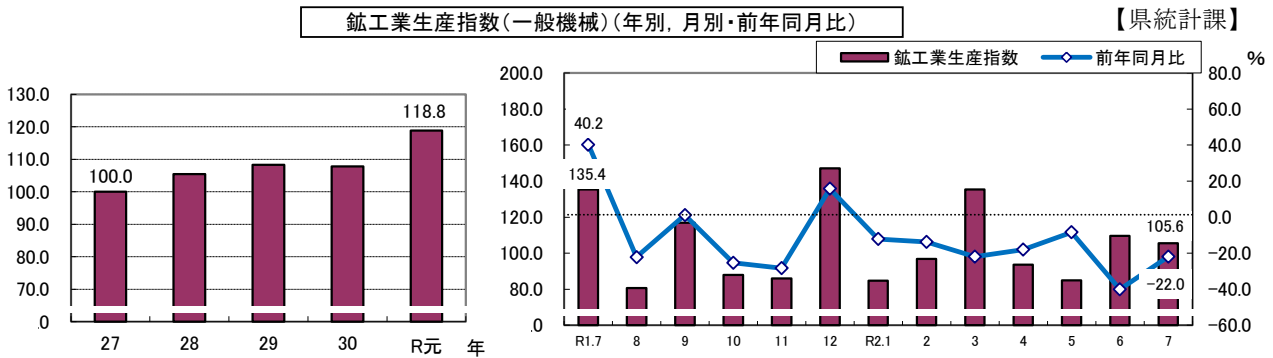


○最近の景況

弱めの動きとなっている。

4 一般機械（令和2年7月）

7月の鉱工業生産指数（一般機械工業，原指数，速報値，平成27年＝100）は105.6で，前年同月比で22.0%減少となっている。

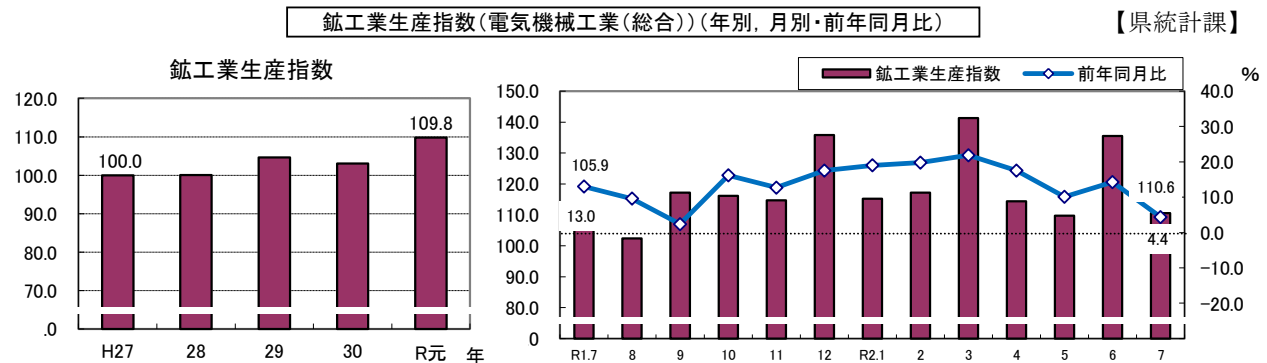


○最近の景況

弱い動きとなっている。

5 電気機械（令和2年7月）

7月の鉱工業生産指数（電気機械工業（総合），原指数，速報値，平成27年＝100）は110.6で，前年同月比で4.4%増加となっている。



○最近の景況

緩やかに増加している。

※ 「最近の景況」は，令和2年8月3日公表の日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」より転記。

Ⅲ 中小企業の動向（令和2年7月）

【広島県中小企業団体中央会】

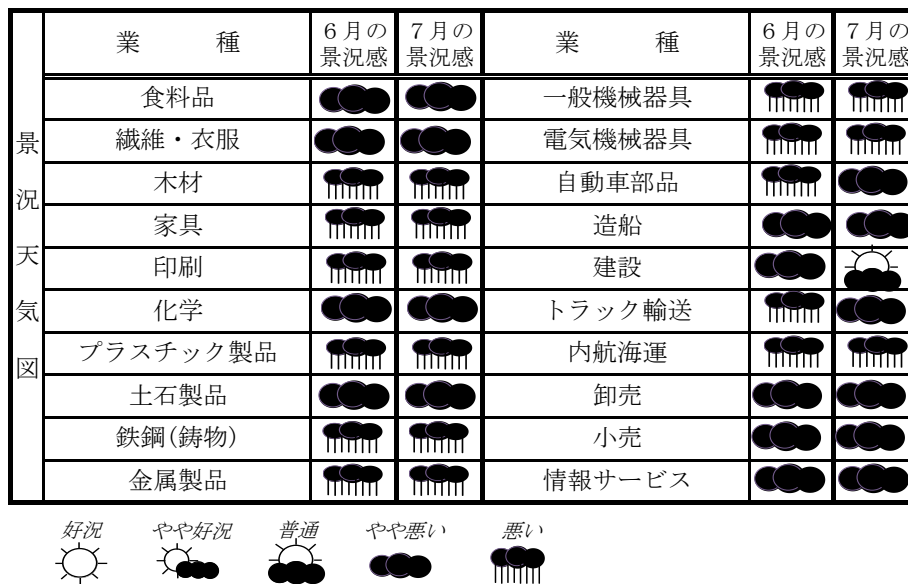
1 概況

自動車関連業種では、国内自動車販売台数が前年同月比13.7%減少と10ヶ月連続の前年割れとなった。マツダ車も同21.2%減少と5ヶ月連続の前年割れ、マツダ車の海外販売合計台数は前年同月比13.1%減少で7ヶ月連続の前年割れとなった。

木材業界では、全国住宅着工数は前年同月比12.8%減少と12ヶ月連続の前年割れ、広島県内の着工戸数は前年比45.6%減少となった。

緊急事態宣言が解除され、回復基調との声もあるが、前年の水準までには至らないことや、第2波の不安から先行き不透明感を懸念する声が多く聞かれる。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「生産・販売状況について（速報）」に基づく。



(1) 景況感の変化

景況感	業種数		
	6月	7月	増減
好況	0	0	0
やや好況	0	0	0
普通	0	1	1
やや悪い	9	10	1
悪い	11	9	▲ 2

(2) 前月（6月）から変化のあった主な業種

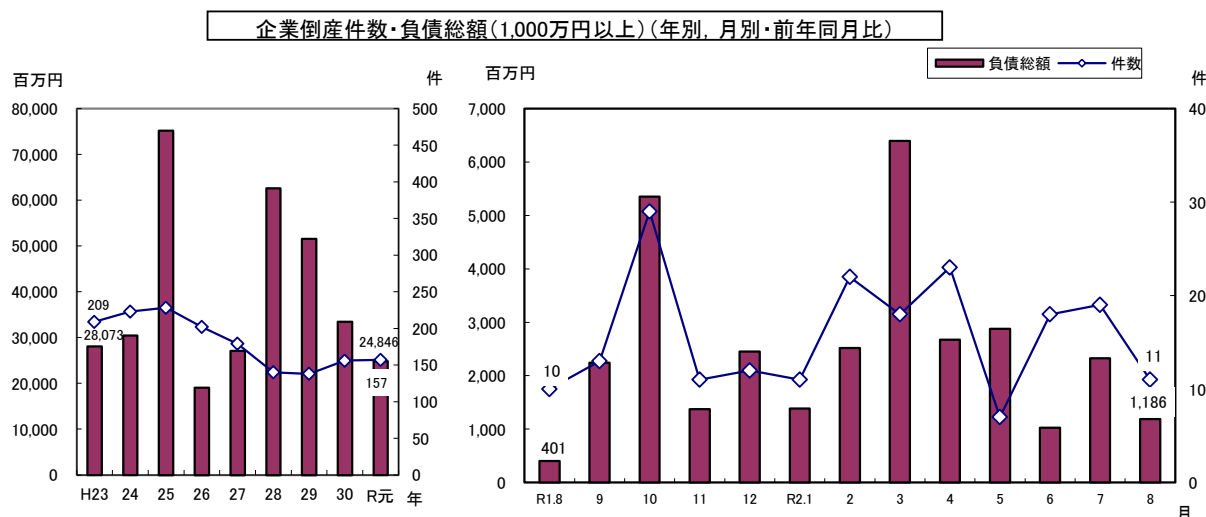
業種	6月の景況感	7月の景況感	変化の理由・状況
建設	やや悪い	普通↑	カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、7月度は前月比44.6%増加、前年同月比32.0%増加、累計前年比11.5%増加となった。緊急事態宣言解除後の現場の動きは回復傾向にある。コロナ禍が月半ばから第2波が近づいており、8月以降も再び予断を許さない状況になってきた。 【広島県室内装飾事業協同組合】
自動車部品	悪い	やや悪い↑	組合員の業況は、ビジネス依存度の高い主要顧客（マツダ）の業況（生産台数）に比例している。 ・マツダの7月の国内生産台数は前年同月比13.7%減少と10ヶ月連続の前年割れとなっているが、6月（59.4%減少）からは45.7ポイント上昇した。 ・7月の国内自動車販売台数は全需が396千台、前年同月比13.7%減少と10ヶ月連続の前年割れ。 →マツダ車は同21.2%減少と4ヶ月連続の前年割れ ・マツダ車の6月の海外販売合計台数は98千台、前年同月比9.4%減少で6ヶ月連続の前年割れ ・マツダの6月の輸出台数は前年比55.2%減少と9ヶ月連続の前年割れ 【東友会協同組合】
トラック輸送	悪い	やや悪い↑	自動車関連が60%程度まで回復し、学校や建設現場の再開に伴い物流量も回復傾向にある。 長距離輸送は大幅に減少し、車両の稼働も戻っておらず運賃は低下している。GoToキャンペーン以降、新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあり8月の繁忙期を前に感染者の増加と物流量の減少を心配している。 【広島輸送ターミナル協同組合】 7月の売上高は前月比増加、前年同月比減少となった。収益状況は前月比若干増加し好転に向かいつつあるが、前年同月比では激減した。 5、6月は関東、中部、関西方面からの返路貨物が激減し、空車回送を余儀なくされていたが、その頃と比較すると貨物も動き出してきている。 しかし、再び新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあり、緊急事態宣言が再度発令されるようなことになれば物流がどうなっていくのか、不安を抱えている。 【松永地区トラック事業協同組合】

IV 企業倒産状況（令和2年8月）

1 概況

負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が11件、総額11億8,600万円であった。前月比で件数は8件減少し、負債総額は11億4,300万円減少した。前年同月比では、件数は1件増加し、負債総額は7億8,500万円増加した。大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

区 分	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
件 数 (前年同月比)	18件 (+ 7件)	19件 (+ 5件)	11件 (+ 1件)
負債総額 (前年同月比)	1,025百万円 (▲ 22.8%)	2,329百万円 (+ 103.4%)	1,186百万円 (+ 195.8%)



2 業種別

件数は、卸・小売・飲食業が4件、サービス業が3件、建設業が2件、製造業、運輸・通信業が各1件となった。負債総額では、卸・小売・飲食業、製造業、建設業、サービス業、運輸・通信業その他の順となった。

3 原因別

原因別では、販売不振が9件、シワ寄せが2件であった。

4 今後の見通し

2019年から県内製造業の生産量減や消費税増税、暖冬など厳しい経済情勢に加え、新型コロナウイルスの影響も広がって取り巻く環境の厳しさが増している。このような中、2020年8月度の県内倒産の件数は11件、負債総額は11億8,600万円で、件数は前年同月比3ヵ月連続増加、負債総額は2ヵ月連続増加であった。2020年に入ってから件数は5月を除く7ヵ月で前年を上回り、負債総額は1月、6月を除く6ヵ月で前年を上回っており、倒産件数、負債総額ともに増加基調にある。

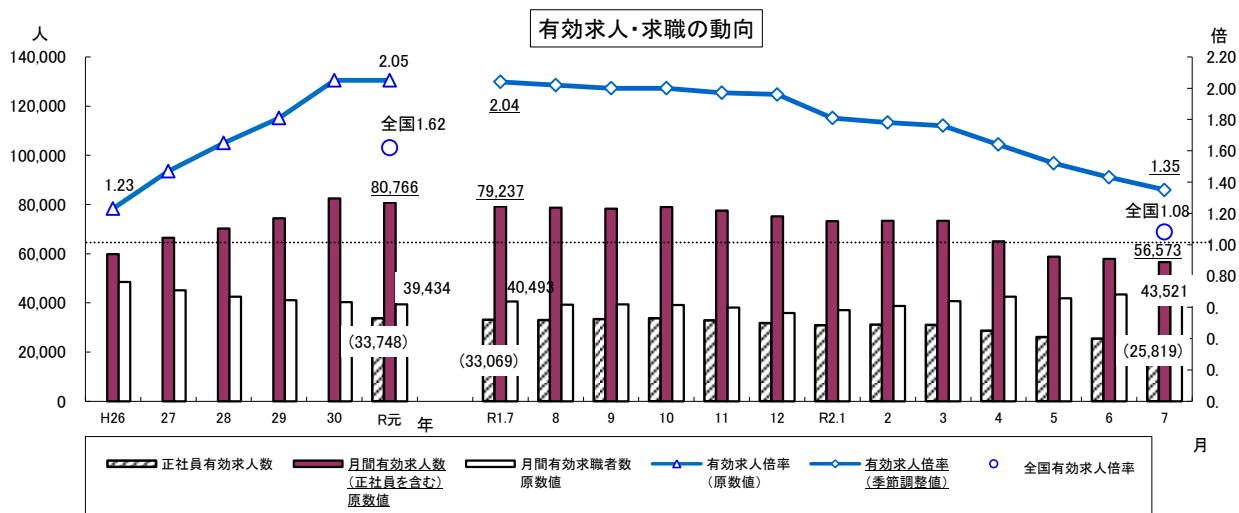
広島県内の新型コロナウイルス関連倒産は3月1件発生し、4月1件、5月1件、6月3件、7月4件と5ヵ月連続で発生（その他準備中1件）していたが、8月に於いて発生はなく、国や自治体、民間金融機関からの資金繰り支援の他、雇用調整助成金、持続化給付金、家賃支援の活用などの効果から倒産件数は抑制されていると見られる。しかし、新型コロナウイルスの収束時期は未だ不透明で感染拡大を予防するための「新しい生活様式」の取り組みが進むなか、事業モデルの見直しが必要となっているもの、変化には資金と時間を要することから臨機応変な対応は容易ではなく、予断を許さない状況は続いている。各種支援策の利用によって事業の継続ができてきている先でも影響の長期化によって倒産や廃業を選択せざるを得ない企業が増えてくることも予測される。その為、国や自治体、金融機関などからの断続的な経済支援が必要であり、長年続いた安倍政権から交代する新政権で打ち出される経済支援策が注目される。

V 最近の雇用失業情勢（令和2年7月）

1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.52倍 (▲ 0.12ポイント)	1.43倍 (▲ 0.09ポイント)	1.35倍 (▲ 0.08ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.02倍 (▲ 0.31ポイント)	0.97倍 (▲ 0.38ポイント)	0.97倍 (±0ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

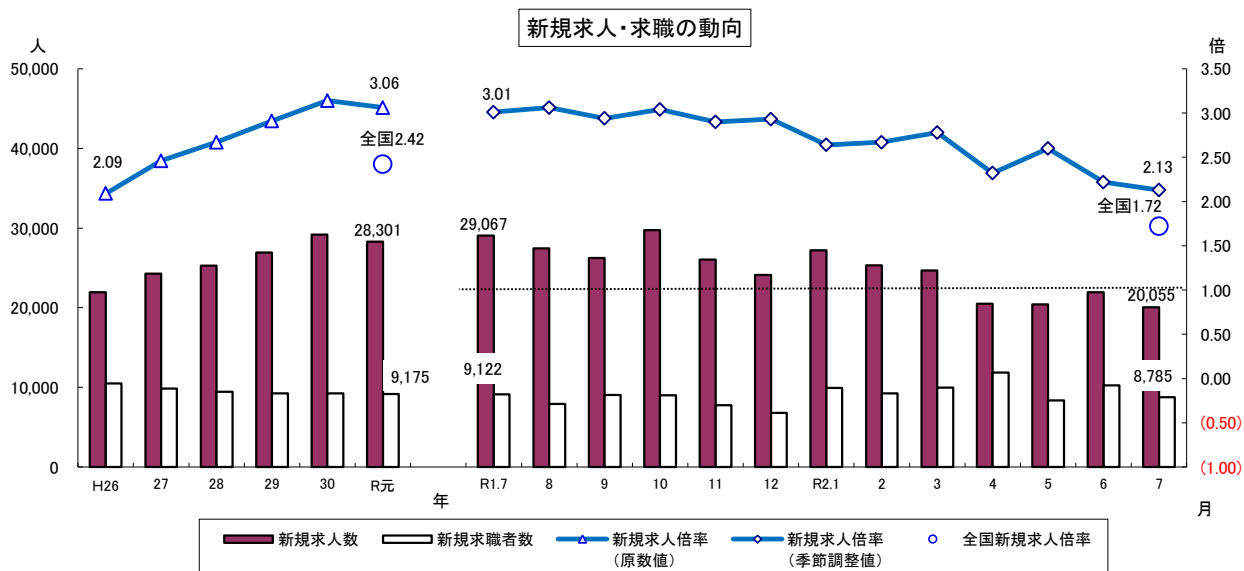
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 平成31年1月から令和元年12月の季節調整値は改訂されている。（令和2年1月分公表時改訂）

2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.60倍 (+ 2.60ポイント)	2.22倍 (▲ 0.38ポイント)	2.13倍 (▲ 0.09ポイント)

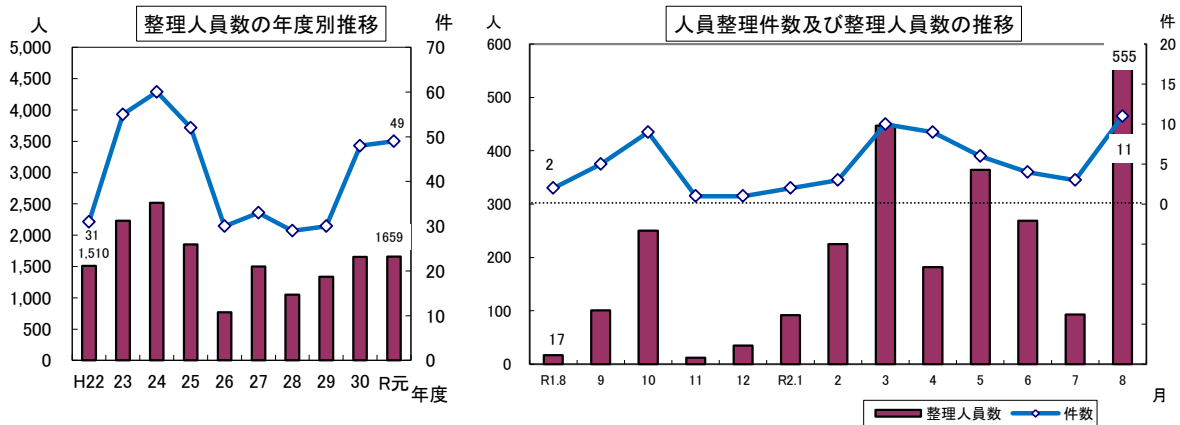
【広島労働局】



(注) 平成31年1月から令和元年12月の季節調整値は改訂されている。（令和2年1月分公表時改訂）

3 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
件数 (前年同月比)	4件 (▲ 2件)	3件 (+ 2件)	11件 (+ 8件)
整理人員 (前年同月比)	269人 (+ 121人)	93人 (+ 93人)	555人 (+ 493人)

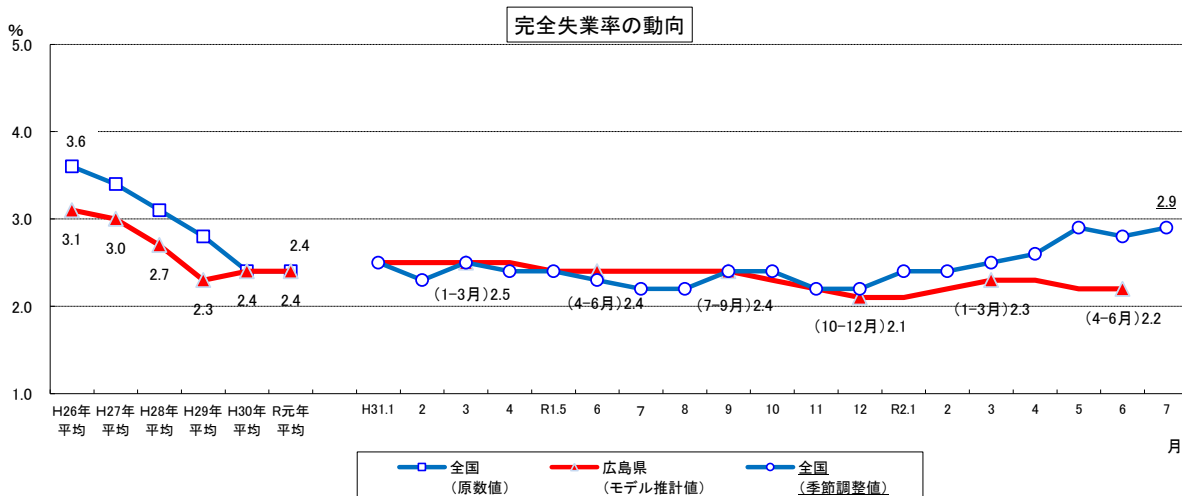


4 完全失業率の状況

区 分	令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月
全国完全失業者数 (前年同月比)	198万人 (+33万人)	195万人 (+33万人)	197万人 (+41万人)
全国完全失業率 (季節調整値) (前月比)	2.9% (+ 0.3%)	2.8% (▲ 0.1%)	2.9% (+ 0.1%)

区 分	令和元年・2年		
	10~12月期平均	1~3月期平均	4~6月期平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前期比)	2.1% (▲ 0.3%)	2.3% (+ 0.2%)	2.2% (▲ 0.1%)

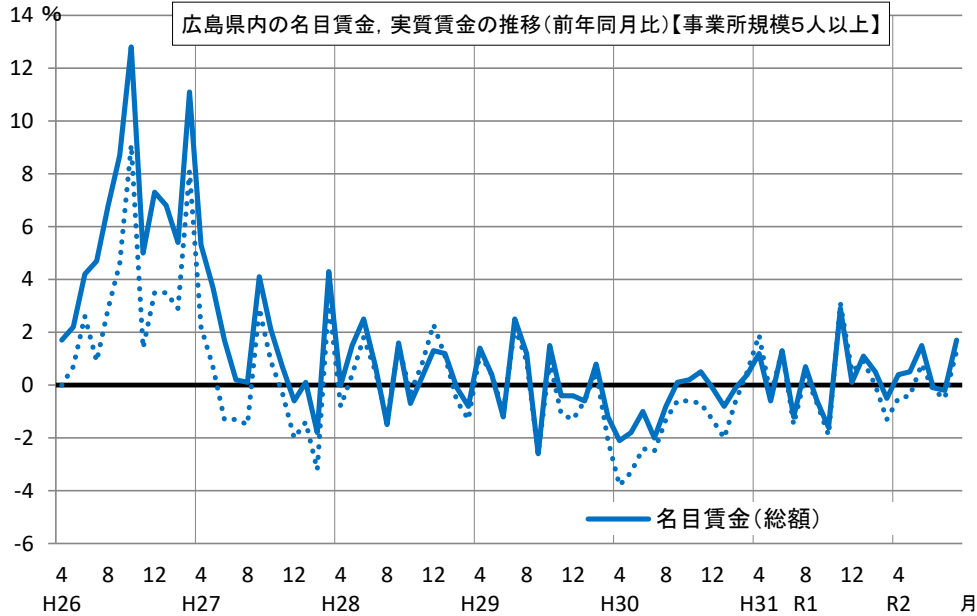
【総務省統計局】



※ 広島県 (モデル推計値) は、毎年1~3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。

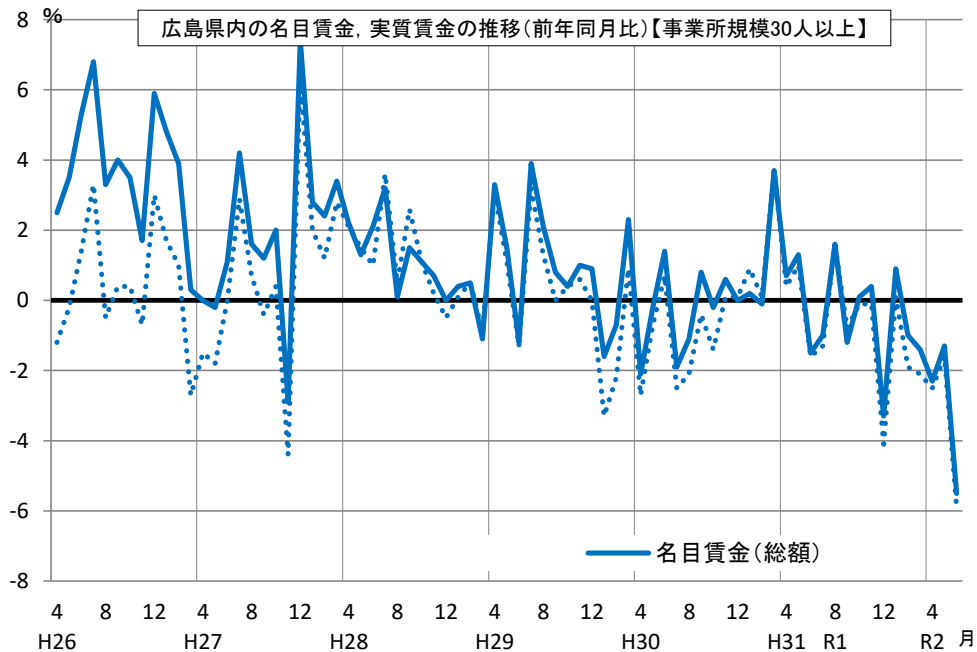
5 名目賃金, 実質賃金の推移 (前年同月比) 【事業所規模5人以上】

区 分	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月
名目賃金	▲ 0.1%	▲ 0.2%	1.7%
実質賃金	▲ 0.2%	▲ 0.5%	1.3%



6 名目賃金, 実質賃金の推移 (前年同月比) 【事業所規模30人以上】

区 分	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月
名目賃金	▲ 2.3%	▲ 1.3%	▲ 5.5%
実質賃金	▲ 2.5%	▲ 1.6%	▲ 5.9%



※ 毎月勤労統計調査から作成。

※ 毎月勤労統計調査の各月の指数を前年同月比で比較して作成。

実質賃金指数は、名目賃金指数を広島市消費者物価指数で除して算出している。